

JA共済 地域貢献活動

# PROJECT STORY



VOL. **03**

JA共済連 青森  
[ JA共済きずなの青い森プロジェクト ]  
令和5年9月



## 環境保全や食農への理解を深める場を 地域住民や子どもたちに提供したい

### 「森林体験+食育+木工」で構成するプログラムを年3回実施

JA共済連 青森は、県土に広がる豊かな森林を活用した地域貢献活動に取り組んでいます。

「JA共済きずなの青い森プロジェクト」と名付けたこの活動は自然と触れ合う機会が少ない地域住民や子どもたちに森の中で体験学習の場を提供し森林と地域の暮らしや農業との関わりについて理解を深めてもらうとともに参加者同士がきずなを深める交流の機会を作ることを目的としています。

平成29年度から「地域・農業活性化積立金」を活用して始まった本プロジェクトは現在では毎年の恒例行事として地域住民や子どもたちの間に定着しています。

### 「森が多いのに、森を知らない」 自然環境への理解不足が課題に

青森県は、全国有数の農林水産業が盛んな地域です。日本一の生産量を誇るりんごやニンニク、ごぼうを始め、水稲や花きなど多様な農産物が生産されています。

また、青森県は面積の約65%を森林が占める自然豊かな地域でもあります。この恵まれた環境を活かし、JA共済連 青森では平成29年度から「JA共済きずなの青い森プロジェクト」に取り組んでいます。

JA共済連 青森の地域貢献課では、以前から地域住民が参加できる地域貢献活動を模索していました。情報収集を続ける中、着目したのが他県で行われていた植樹活動の事例でした。現在このプロジェクトを担当する地域貢献課課長の須藤巧さんは、「青森県は森林が多いので、植樹などの環境保全活動なら、私たちの地域で

も取り入れやすいのではないかと考えました」と当時の状況を説明します。

須藤さんが植樹活動に着目した背景には、日頃から気になっていた地域の課題がありました。それは「身近に豊かな自然環境がありながら、地域の人たちは森が果たす役割や機能についてよく知らない」ということでした。

「森は人々の生活や地域農業と密接な関連があります。近年の気候変動は農業にも大きな影響を及ぼしていますが、地球温暖化を引き起こす大きな要因の一つが森林破壊です。ですから未来の農業を守るには、森を含めた自然環境を守らなければいけない。地域の人たちにも、それを知って欲しいという思いがありました」

JA共済連 青森  
事業推進部  
地域貢献課 課長  
須藤巧さん



## 「山や森と農業はつながっている」 農林一体の活動に森林組合が共感

ただし植樹活動を実施するには、植樹に適した場所や施設と、活動のない時期も森林を管理してくれる協力者が必要です。これらの条件を満たす環境やパートナーを見つけるのは難しく、青森県内で植樹活動が行われた実績もほとんどありませんでした。

それでも地域貢献課が粘り強く検討を続けたところ、青森市に隣接する平内町に植樹活動ができる山林があるとの情報が入ります。弁慶内地区と呼ばれるこの地域の森を管理していたのが、森林組合あおもりでした。そこで森林組合と話し合いの場を設けて、地域貢献活動に協力してもらえないかと提案。森林組合で参事を務める船橋繁幸さんは、「共に第一次産業を担う団体として、地域のために連携できるのは光栄だと受け止めました」と振り返ります。

「山や森と農業はつながっています。私たちが森林を整備することで、土壌の養分を含んだ豊かな水が田畑へ供給される。きちんと管理さ



「地域のために林業と農業の団体が協力し合えることに意義を感じます」と語る森林組合あおもりの船橋さん



森林の役割を学ぶ「森林プログラム」では森の中で木の間伐や枝打ちの様子を見学

れた森林には防災機能があり、土砂災害や水害から農地を守る役割もあります。ですから林業と農業の団体が協力し、一体となって活動できることに共感して、森林組合としてもぜひお手伝いしたいと伝えました

こうして平成28年からプロジェクトの実施に向けた準備がスタートします。森林組合と打ち合わせを重ね、参加者が集まる広場や森林の中を安全に移動するための歩道を造るなど、会場となる森林の整備を進めました。

## 食や農の大切さを伝えるため 自然学習に加え食育クイズも実施

会場整備と並行して、活動で実施するプログラムの企画にも着手。検討を重ねた結果、3つのプログラムで構成することになりました。

1つめは、参加者に森林の役割を学んでもらうための「森林プログラム」です。こちらら森のことを熟知した森林組合と相談し、当初から想定していた植樹活動に加え、間伐や枝打ちの作業見学、自然・樹種観察、薪割り体験などを行

うことにしました。

2つめは「食育プログラム」です。青森県で生産される豊富な食材を知ってもらい、JAグループとして食や農の大切さを伝える機会にしたいと考え、食に関するクイズやゲーム、地元産の食材を使ったバーベキューを実施することに決めました。

3つめは「木工クラフトプログラム」です。工作を楽しみながら青森県産の木材に触れ、親しむ時間を設けました。

一方で、参加者の募集についても準備を進めました。活動の主目的が教育や学習であることから、ぜひ参加して欲しいと考えたのが小学生です。須藤さんは、地元の子どもたちが自然に触れる機会は意外と少ないといいます。

「青森県は学区が広いので、子どもたちの通学時も親が車で送り迎えしたり、スクールバスを使うケースが多く、学校の行き帰りに自然の中で遊ぶ機会がほとんどありません。せっかく豊かな自然に囲まれて暮らしているのに、子どもたちがその魅力に触れる機会がないのはもったいない。そんな思いがありました」

もちろん、参加者の募集に当たっては各関係先の協力が不可欠です。そこでまずは、県本部から平内町の教育委員会に相談し、活動について理解と了承を得た上で、町内にある3つの小学校に参加を呼びかけました。そのうち1校から参加の申し出があり、4年生から6年生のうち希望者を募って実施することになりました。

さらにJA青森の女性部を通じて、地域で暮らす女性たちの参加も募ることに。当日の進行やプログラムの内容に問題がないか確認する場を兼ねて、県内の各JAで参加者を募って試験



学校ではできない数々の貴重な体験に子どもたちも自然と笑みがこぼれる

的に実施する回も設けることにしました。これによりプロジェクトは年3回の実施とし、小学生や女性部員を対象に行うこととなりました。

こうして約1年間の準備期間を経て、平成29年の春から「JA共済さずなの青い森プロジェクト」が始動しました。

プロジェクトの主催者は地域貢献課ですが、実施当日は県本部から他部署の職員も参加し、毎回計15名ほどで現場の運営に当たります。できるだけ多くの職員に活動を知ってもらうため、他部署から参加する顔ぶれは毎年入れ替えています。「今では他部署の職員も手伝うのが当たり前という感覚になっています」と須藤さんが話すように、県本部内でも毎年の慣例行事としてすっかり定着しています。



## 協力団体や参加者が拡大し 地域全体に根付いた活動へと発展

プログラム内容や実施体制も改良を重ねています。食育プログラムについては、2年目から青森県生活協同組合連合会(以下、県生協連)の協力を得て、さらなる充実を図りました。

「県生協連に食育や食品の安全に関する専門部署があることを知り、協力を依頼しました。地域貢献のために協同組合同士で連携を図りたい意図もありました」と須藤さん。現在は、県生協連がクイズの司会進行とバーベキューの食材提供を担当しています。

令和2年度からは、プロジェクトの趣旨に共感した平内消防署からの申し出により、森林プログラムの一環として消防署員の指導による消火疑似訓練や濃煙体験(火災時の煙を疑似体験)が加わりました。JA共済連と消防署は「地域の安全な暮らしを守る」という目的で一致しており、両者の連携によって参加者に防災意識を高めてもらう機会を提供しています。

また、参加者の層も広がっています。地域貢



「地域に根付いたJAグループと一緒に住民の防災意識を高めていきたい」と語る平内消防署の沖崎さん

献課が平内町役場に活動内容を紹介したことがきっかけとなり、現在は10月の実施回に町役場職員も参加。町役場が発行する広報誌にプロジェクトの紹介記事が掲載されるなど、JA共済連の地域貢献活動を広く周知する機会づくりにもつながっています。

小学生の間でも、夏休みの恒例行事として定着。現在は6年生を対象に約40名を募集し、毎回定員を上回る参加希望が寄せられます。毎年参加している1校に加え、令和5年度は新たにもう1校の参加が決まりました。

活動も今年で7年目を迎え、本プロジェクトは地域全体の取組みとして着実に浸透しています。

## 住民参加型の地域貢献活動が JAと地域住民のきずなを深める

令和5年7月25日。夏空のもと、小学生を対象としたプログラムが実施されました。

子どもたちは森林プログラムの講師を務める森林組合員に引率され、木の間伐や枝打ちを見学。樹齢数十年の木が音を立てて倒れると、「お〜っ」「すごい!」と歓声が上がります。薪割り体験にも挑戦し、うまく割れた子は「やったー!」と大喜び。初めての体験を楽しむ様子があちこちで見られました。

続いて行われた食育プログラムでは、地元食材に関するクイズを実施。正解して地元産品のスイカやメロンをもらった児童は、嬉しそうな笑顔を見せました。

クイズの後には、お待ちかねのバーベキューで

す。地元産の野菜や肉、青森のブランド米「青天の霹靂」を使ったおにぎりを夢中で頬張る子どもたち。「おいしい!」「玉ねぎも甘くてシャキシャキしてる」と満足そうです。

参加した感想を聞くと、「森に入ったことがなかったから、木を切るところが見られて面白かった」と女子児童。別の女子児童は「前にお姉ちゃんが参加して楽しく、勉強になったと聞いたので、自分も来てみたかった」と話すなど、活動が口コミで広がっている様子がうかがえます。引率の教師は「JAグループは農業の団体だと思いましたが、地域の子どものためにこんな素敵な活動をしていることを初めて知りました。森林学習や野外バーベキュー、消防署での体験や木を使ったものづくりなど、学校ではできない体験の場を提供して頂き、私たちもありがたいと思っています」と話しました。

地域貢献課の須藤さんは、活動がJAファンづくりにつながっていることを実感しています。

「私たちに対して『共済を取り扱う団体』というイメージをお持ちの方もいますが、本プロジェクトのような地域貢献活動を続けることで、JA共済が『豊かで安全に暮らせる環境づくり』に取り組んでいることを地域の人に知ってもらえます。JA共済連は地域に密着した組織であり、地元の人でも『JAが何かやるなら行ってみようか』と気軽に参加してくださる。その強みを活かし、これからも地域のきずなを深めていきたいと考えています」

協力団体からも、JA共済連が持つ地域とのつながりを高く評価する声が聞かれました。食育プログラムに協力する県生協連の川村耕平さんは、「生協連も独自に食育活動などを行って



「JA共済連と連携し、今まで交流のなかった地域住民にも食育活動を行えます」と話す、県生協連の川村さん

ますが、あくまで生協組合員を対象とした活動に留まります。JA共済連が共済加入者の枠を超え、地域で暮らす幅広い層に届く貢献活動を行っている意義は大きいと感じます」と話します。平内消防署の沖崎慎也さんも「JAグループは地域に根付いた組織。住民との交流を通じて、地域全体の防災意識を高める役割も果たして頂けるのでは」と期待を寄せます。

地域貢献課としても地域住民との交流をさらに広げたい考えで、今後は県内の近隣地域に範囲を広げて参加者を募る予定です。

これからもJA共済連は、地域住民とのきずなや他団体との連携を深めながら、地域に根ざした地域貢献活動を続けていきます。



## 取材協力者のご紹介



JA共済連 青森  
事業推進部  
地域貢献課 課長  
**須藤 巧さん**

### 【経歴】

- 平成10年 入会  
自動車部自動車契約課
- 平成12年 管理部総務課
- 平成13年 自動車部青森津軽自動車  
損害調査サービスセンター
- 平成16年 生命建物部生命共済課
- 平成18年 業務部生命建物課
- 平成22年 管理部総務課
- 平成31年 事業企画部関連事業室  
地域貢献グループ
- 令和2年 事業企画部 地域貢献グループ
- 令和4年 事業推進部 地域貢献課 課長

### 【地元の好きなところ】

豊かな自然環境に囲まれているところ。青森ならではのきれいな空気の中で生活できます。冬は雪が積もって除雪作業が大変ですが、だからこそ春が来た時は大きな喜びを味わえます。

### 【休日の過ごし方】

3年前からトレッキングを始めました。ダイエットが目的でウォーキングを始めたのがきっかけで、さらに効果的な運動はないかと考え、山歩きに辿り着きました。トレッキングを始めてから、青森県には登山できる山がたくさんあることを知りました。

### 【この活動を通じて感じたこと】

毎回、事前準備は大変ですが、参加者に喜んで頂けることを嬉しく思います。実施後のアンケートで「楽しかった」「来年も参加したい」といった感想を頂くと、「次回も皆さんに楽しんでもらえるよう頑張ろう」というモチベーションにつながります。



## 「JA共済きずなの青い森プロジェクト」の概要

### 活動の背景

- 森林が多い地域ながら、地域住民が森の役割や機能にふれる機会が少なかった。
- 県内では森林を活用した植樹活動などの実績もほとんどなかった。



### 活動の内容

- 地域住民が自然と触れ合いながら、森林と地域の暮らしや農業との関わりについて理解を深める学びと交流の場として平成29年度から「JA共済きずなの青い森プロジェクト」を開始。
- 会場の森林を管理する森林組合の協力を得て広場や歩道などを整備し県内の小学生やJA青森女性部員、町役場職員を対象に「森林+食育+木工」を組み合わせたプログラムを年3回実施。
- 現在は県生協連や地元消防署が協力団体に加わり青森県産の農産物や食材をテーマとしたクイズや防災意識を高める消火疑似訓練など参加者が楽しめるプログラムを提供している。



### 活動の成果

- 令和5年で活動は7年目を迎え、地域住民の間に取り組みが浸透。この数年は毎回約40名の定員を超える参加希望が寄せられる。
- JA共済が地域のために「安心して生活できる環境整備」に取り組んでいることが周知され、JAファンづくりにつながっている。



## 活動のポイント

①

森林が多い環境特性に着目し  
地域の課題と結びつけた企画力

②

森林組合、学校、消防署などを  
巻き込み地域の協力体制を構築

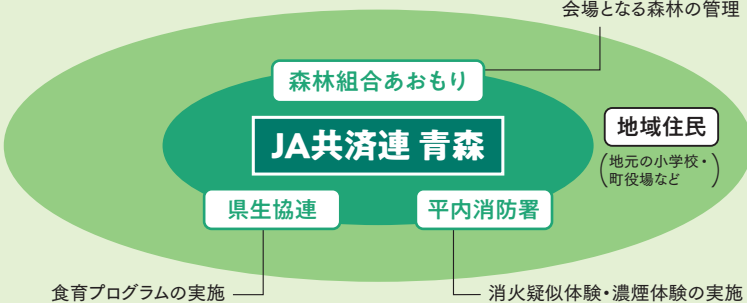
③

幅広い層に参加を呼びかけ  
地域住民との接点や交流を増やす

## 「JA共済きずなの青い森プロジェクト」の展開

森林プログラムの実施・  
会場となる森林の管理

JA共済連 青森が中心となり、森林組合や学校など、地域の団体を巻き込み、協力体制を構築。地域住民や子どもたちに環境保全や食農への理解を深める場を提供。地域に根差した団体として、地域住民と他団体とのつながりを広げる役割を担っています。



「JA共済 地域貢献活動 PROJECT STORY」は  
今後もシリーズとして発行を予定しています。  
同取組みを動画で紹介している  
「一緒に地域を咲かせよう」もぜひご覧ください。

県域独自の地域貢献活動を動画で紹介  
「一緒に地域を咲かせよう」

JA共済 咲かせよう 検索

▶ [https://social.ja-kyosai.or.jp/prefecture\\_case/](https://social.ja-kyosai.or.jp/prefecture_case/)



### 編集後記

地域の特性を活かしたプロジェクトを一から展開する中で、地域の協力体制の構築とともに参加者が広がり、地域のきずなが深まる素晴らしい取組みでした。イベントを通じて多くの発見や学びを得ている様子が、参加する子どもたちのキラキラとした表情から伝わってきました。ぜひ本記事へのご感想や取材のご要望など、お気軽にご連絡ください。  
(小池・岡田)

発行：JA共済連 全国本部 農業・地域活動支援部